

デュロック種の生産性向上のための肢蹄評価確立試験

種豚において肢蹄の強健性は重要ですが、デュロック種では、ランドレース種や大ヨークシャー種の肢蹄評価スコアにあてはまらない部分があり、系統造成においてスコア方式による選抜は行われていません。また、一般農家の生産現場では、肢蹄への関心は高いが客観的に評価できるスコアシートがありません。

そこで、デュロック種種豚選抜に利用可能な肢蹄評価方法を確立します。

[主な特徴及び内容]

当所のデュロック種系統造成試験の第一・第二世代豚を用いて、スウェーデンのスコアモニタリングモデルに準じ、肢蹄の形状及び歩様の状況を調査しました。

[主な成果]

- 1) 部位の重要度等を考慮して図1に示したとおり形状減点を決め、前肢、後肢および歩様合計にそれぞれの減点倍率を乗じ、その合計を100点から減じて得点としました。
- 2) 種豚審査標準に準じたランク分けすると、表1のとおりランクに応じた得点でした。
- 3) 評価得点80点以上をA、65~79.9点をB、50~64.9点をC、50点未満をDとすると、ランク適合率は表2のとおり70%以上となり、デュロック種肢蹄評価方式として利用できると推察されます。
- 4) 前・後肢ひづめおよび前肢前貌の評価を省略しても適合率はあまり下がらないので、一般農家ではこれらは省略しても良いと推察されます。

[期待される効果]

この評価方法をデュロック種系統造成に反映することにより、肢蹄強健な系統豚を作出できます。

簡易型評価法で農家自らが、客観的に種豚選抜を行うことにより、生産性向上に役立ちます。

前肢	手首	前屈 -1.2	やや前屈 -0.6	標準 0.0	やや鎌状 -0.5	鎌状 -1.0					
	つなぎ	直立 -1.0	やや直立 -0.4	標準 0.0	やや弱い -0.1	弱い -0.7					
	ひづめ	標準 0.0	不揃い -0.7	小さく狭い -0.7	長い -0.7						
	着地位置	前 -1.2		標準 0.0							
	前貌	O型 -0.7	肢間狭い -0.4	標準 0.0	外向 -0.6	X型 -0.7					
後肢	飛節	急勾配 -1.2	やや急勾配 -0.4	標準 0.0	やや鎌状 -0.4	鎌状 -1.0					
	つなぎ	直立 -1.0	やや直立 -0.4	標準 0.0	やや弱い -0.2	弱い -0.7					
	ひづめ	標準 0.0	不揃い -0.7	小さく狭い -0.7	長い -0.7						
	着地位置	前 -1.2		標準 0.0							
	後貌	O型 -0.7	肢間狭い -0.3	標準 0.0	外向 -0.6	X型 -0.7					
歩様12倍	前肢 歪い -0.4	前肢 突張る -0.8	後肢 堅い -0.3	後肢 跳上げ -0.8	後肢 回す -0.6	後肢 斜め出 -0.6	飛節 ひねる -0.3	尻引く -1.0 やや -0.3	後脚 ひねる -0.9	後肢 踏込深 -0.8	跛行 よるける -1.2

図1 部位別減点及び減点倍率

表1 ランク別平均評価得点

調査時期	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	平均
G1 35Kg時	86.9	74.8	62.4	50.2	74.7
G1 105Kg時	83.5	72.3	59.8	42.9	65.9
G2 35Kg時	85.4	73.2	60.1	42.8	64.4
G2 105Kg時	83.5	70.9	60.1	42.0	59.4

表2 ランク適合率(%)

調査時期	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	平均
G1 35Kg時	84.6	72.3	58.8	57.1	72.8
G1 105Kg時	76.5	67.4	67.3	83.8	73.0
G2 35Kg時	100.0	78.1	60.9	84.0	73.7
G2 105Kg時	83.3	70.5	63.0	75.0	70.3